

第5回南砺市立学校のあり方検討委員会

令和5年4月26日(水) 午後7時00分
南砺市役所 別館3階大ホール

1. 委員長あいさつ

2. 報告事項

(1) 第4回学校のあり方検討委員会 各委員の意見まとめ

資料1

(2) 南砺市立学校の建設及び改修年次

資料2

3. 協議事項

(1) 今後の学校のあり方検討の方向性について

資料3

4. 次回協議会の日程 第6回検討委員会 令和5年 月 日 ()

5. 副委員長あいさつ

第4回南砺市立学校のあり方検討委員会 意見発表まとめ

委員	意見内容
A	全地域において人口減少進んでいる。学校中心とした地域づくりが盛り上がっている中で、学校も統合すればいいのか、まだ考えはまとまっていない。
B	考えは揺れ動いているが、人口減少が本当に早く、待った無しの現状。中学校は統合する方向性を打ち出したほうが良いと思う。学習環境を整えるため各校に教科担任が必要。中学校をまず整え、学習を保障すべき。
C	義務教育学校のメリット・デメリットはまだ分からない。中学生は別として、学生は移動にかかる負担を考えると、近い学校に通うのがよい。
D	世界遺産の文化を受け継いでいくためには、五箇山地域に小中学校は必要。また、南砺市には県立高校が2校になった。平高校も定員割れが続く。高校との連携も必要。
E	通学時間が長いと南砺市には住まない。中学校については、校舎も新しいし15年後までは今のままで良い。行事を合同で行うなど、連携を進めていけば良い。
F	福野は3クラスあって先生も多く、ありがたい環境。同級生が多いのは生活もしやすい。学校は地域に残したほうが良い面もあるが、ある程度の規模で人間関係もあつたほうがよいので、中学校はクラス替えできる程度の規模で統合していったほうが良い。
G	利賀は、義務教育学校に向けて進んでいる。山村留学を受け入れている。少人数でも、子供が行きやすいという面で、議論を進めていってもらえればと思う。
H	子供の数が増えることはないと思っているので、少ない人数でどう学習していくかということが大切。五箇三村は、移住事業や生徒の交流を全体で行っていくことを考えていけばよい。井口の義務教育学校で、低学年から高学年まで一緒になって競い合っているのは、よい影響だと思う。
I	少子化に加え不登校も増えている。土台となる小さいうちは、地域を大事にした学校づくりがよいと思う。中学校は、できることも広がっていくので、統合を考えるべき。教育には、お金を投入していただきたい。子供がど真ん中の地域をつくるべき。
J	中学校に関しては、最終的に統合が望ましい。小学校は単級でも基礎学力を身に付ける。中学校はクラスが多いほうが良い。福光地域では令和15年までに中学を統合すべき。南砺市のモデルになると思う。
K	保護者からは、統合の意見も多く聞いている。学校では、南砺市の子供たちが、郷土に誇りをもつ教育に取り組んでいる。地域の声を入れながら学校をつくっていくことを考えている。
L	小さいころから上平で育っているもので、1クラス40人にピンと来ない。平・上平地域では10年前に小中学校が統合した。子供たちは人が多くなり楽しんでるし、競い合える。子供たちが学校に行くのが楽しくなるような義務教育学校にしてもらえれば良い。
M	教育委員をしていたときに小規模校の良さが分かった。前回の検討会ではいつまで地域にこだわるのかと言われたことが衝撃だった。義務教育学校の方向性で将来的に小さい学校になることが保護者にとって魅力的なのか。令和3年度のPTAアンケートで2割の方が統合に賛成している。統合を前倒しで考えるという意見もあるのではないかな。
N	義務教育学校化については、地域の特色を出すときに 中学生が単級になるのはどうなのかなというところがある。統合した場合は、通学距離が長くなってしまいうことも不安。自分の考えとしては迷っている。

委員	意見内容
P	南砺市で育てて、南砺市に帰ってくるような教育をしていただければよい。義務教育学校になれば、地域全体で育てられる。小規模校のほうが、目が行き届く。福光、吉江中学校の統合が望まれているのなら、したほうが良い。
Q	南砺市に帰ってきてくれるのが重要。令和15年を考えれば今のままで良いのではないのか。少人数でも過去に優秀な人材が出ている。南砺市は少人数に特化すれば良い。先生が大変になるが、市も予算をつけてバックアップすべき。
R	移住定住のために学校は必要で、義務教育学校を全面的に進めている。中学校の統合については、遠距離の子は、寮に入っても良いのではないのか。交通網の整備などが必要。
S	子供たちは、地域の人たちに愛されて育っていると感じた。自分の学校を愛しているから。統合にもっていきたくない。ただ、将来を考えると、中学校は統合を進めていくべきと思っている。子供たちが切磋琢磨して、多くの意見を聞いたり、発表したりするのが大事。小学校は、地域に愛されるものであってほしい。
T	上平・平地域は、義務教育学校化に進んでいる。市の全体については、保護者、若い世代の意見も聞いていっていただきたいと思っている。私たちの子供世代が、地域に帰ってきたいという学校にしてほしい。地域に根差した意見をもう少し聞いていただいて、検討を進めていただきたい。
U	経験上、複式学級に抵抗はない。これ以上、人数が減るということで、義務教育学校やむなしと考える。
V	福光高校が閉校してから、活気がなくなった。学校が地域からなくなるのは、そういうこと。富山では学校選択制をやっている。南砺市の中学校でも選択制を採り入れたらと思う。小学校は今のままで、福光では統合を進めていってもらえればよい。
W	小学校は複式になるまでは残すべき。令和15年に複式で残すべきか否かは、そのときに決めればよい。中学校では先生の負担は大きく単級はありえない。小学校の前に保育園がなくなると思う。今すぐ議論を開始すべき。
X	子供の教育環境が第一。複式学級にならない限り小学校は残すべき。中学校は2クラス以上必要。以上を踏まえると、現在、義務教育学校化を進めている平・上平地域はこれを進める。福光地域については、吉江中学校、福光中学校を統合すれば、少なくとも2クラスが確保できる。福光南部小学校は、複式化が近い将来見えているので、早めに、福光中部小学校と福光東部小学校へ統合。井波地域及び城端地域の中学校は、井波と城端の統合でひとつとし、小学校は今のままで残す。福野は、当面は複数クラスが残るので、今のままでいけば良い。
Y	子供たちが減っていくということを悲観的でなく、プラスに捉えることができないか。今はタブレットを持っている。オンライン事業の実績もある。誰もがいつでもどこでも南砺市だけでなく、世界中と交流できる時代がくる。地域の関わり、部活動、リアルなコミュニケーションが大事だと思っている。今の地域を残していくのが前提だが、どう延命するか議論になっている。学校規模にこだわる必要はない。統合前倒し。
Z	福光地域に特化していくと、中学校統合については、今すぐ議論を始めるべき。コミュニティスクールで新規の人材をうまくできるようになったら良い。

南砺市立学校建設年度等について

■小学校

令和5年4月作成

学校名	建物区分	主な棟の建設年度	経過年	大規模改修完了年度	改修からの経過年	備考
城端小学校	校舎	2006年	17年			
	屋体	1971年	52年	2007年	16年	
上平小学校	校舎	2014年	9年			
	屋体	2014年	9年			
利賀小学校	校舎	1996年	27年			
	屋体	1996年	27年			
井波小学校	校舎	1969年	54年	2018年	5年	
	屋体	1970年	53年	2005年	18年	
福野小学校	校舎	2009年	14年			
	屋体	1969年	54年	2010年	13年	
福光南部小学校	校舎	1971年	52年	2007年	16年	
	屋体	1972年	51年	2008年	15年	
福光中部小学校	校舎	1976年	47年	2020年	3年	
	屋体	1978年	45年	2020年	3年	
福光東部小学校	校舎	1981年	42年	2013年	10年	
	屋体	1981年	42年	2011年	12年	

■中学校

学校名	建物区分	主な棟の建設年度	経過年	大規模改修完了年度	改修からの経過年	備考
城端中学校	校舎	1986年	37年			
	屋体	1986年	37年			
平中学校	校舎	2011年	12年			
	屋体	2011年	12年			
利賀中学校	校舎	1996年	27年			
	屋体	1996年	27年			
井波中学校	校舎	1973年	50年	2019年	4年	
	屋体	1991年	32年	2014年	9年	
福野中学校	校舎	1960年	63年	2015年	8年	
	屋体	1971年	52年	2012年	11年	
福光中学校	校舎	1992年	31年			
	屋体	1993年	30年			
吉江中学校	校舎	1998年	25年			
	屋体	1998年	25年			

■義務教育学校

学校名	建物区分	主な棟の建設年度	経過年	大規模改修完了年度	改修からの経過年	備考
南砺つばき学舎	校舎	2022年	1年			
	校舎	1981年	42年	2023年	0年	旧中学校部分
	屋体	2000年	23年			旧小学校体育館
	屋体	1986年	37年			旧中学校体育館

※大規模改修時設計上の普通教室の数は、その時点での児童生徒数を基準としている。

資料 3

今後の南砺市立学校のあり方検討の方向性について

第4回南砺市立学校のあり方検討委員会においては、15年後を目途に各委員が考える学校のあり方について自由に発表していただいた。主に各委員が考えておられる将来の学校の形に関するご意見が多かったが、第5回委員会においては、統廃合検討の時期・手法についての議論をしていただきたい。

教育委員会の提案（第2回委員会説明資料）

地域を基盤とした小中一貫教育を基本とし、第1期学校のあり方検討委員会の提言を踏襲しながら、時期と手法をより具体化する。これまで市内で実践されてきた統廃合（義務教育学校化）の手法に倣い、地域の意向を優先する。

- ① 基本となる考え方　　地域を基盤とした小中一貫教育（少人数教育）
- ② 時期　　　　　各中学校区（福光は地域全体）において、複式学級ができるか、小学1年生～中学3年生までの全学年が単級となる5年前を目途に議論を開始する。
- ③ 手法　　　　　地域が主体となって設置する検討委員会において、義務教育学校化するか、隣接する校区へ統合するかを検討し、その結果を南砺市立学校のあり方検討委員会に諮り、統廃合の方針を決定する。
- ④ その他　　　　既存の学校施設を使用する（新設はしない）。

南砺市立学校のあり方のこれまでと、これからの見通し（案）

〈これまでの動き〉

年次	H21	H26	H28	H30	R1	R3.1	R3.4	R4.3	R4.3
項目	① 平中学校開校	上平小学校開校	② 第2次公共施設再編計画	井口地域義務教育学校設置協議会設置 (R3開校)	④ 公共施設再編計画検討委員会	⑤ 南砺市立学校のあり方検討委員会	南砺つばき学舎開校	南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会	⑥ 第2次南砺市公共施設再編計画(改訂版)
内容			8地域に学校を維持する方針		市内全公共施設の面積を1/2にするため、4小・2中の案	全ての地域に義務教育学校として残す方向(全ての学年が単級になった時点)。ただし、保護者の要望+地域の同意で統合も可 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">提言書</div>	市内初の義務教育学校が開校	①拠点校化 ②地域移行 ③特認校制度 ④国・県の動向の注視 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">提言書</div>	今後、学校のあり方検討委員会<II>で協議された結果が反映される(面積1/2に縛られない)
その他の動き	⑦ 【平・上平地域】【井口地域】(【利賀地域】)への対応から、学校を統合するか、義務教育学校化するかどうかは、その地域の意思が最優先される。2つ以上の地域にまたがる場合は対等に扱われる。				『南砺・令和の教育改革』・・・小規模校のよさを生かし、問題点を減らす改革 ・R2『チーム担任制』開始 ・R2 部活動改革に着手 ・R3『地域毎の学校評議員会』 ・R5 特認校制度開始				
	③ 小中連携、学校間連携の推進				地域を基盤とした小中一貫教育の開始				

〈これからの動き(案)〉

年次	R4~R5	〈設置年次は原則5年ごと、必要に応じて前後する〉					
あり方検討委員会	⑧ 南砺市立学校のあり方検討委員会<II>	R5~ コミュニティスクール化に向けて順次対応					
地域	R4.9	R6.4	R6頃	R11	R12頃	R17	R42(2060)頃
項目	利賀地域義務教育学校設置協議会設置	⑩ 利賀地域義務教育学校開校(予定)	福光地域将来の学校検討委員会設置(5校全体で検討)	⑫ 福光南部小に複式学級、福光東部小・吉江中が全学年単級化(R14)	井波地域将来の学校検討委員会設置	⑭ 井波小・井波中が全学級全学年単級化	人口減少が進み、義務教育学校の統合も視野に入る ⑮ 福野地域将来の学校検討委員会設置
年次		R5以降	R7以降	R10頃	R15		
項目		平・上平地域複式学級化(要望があれば)義務教育学校設置協議会設置	⑪ 平・上平地域義務教育学校開校(?)	城端地域将来の学校検討委員会設置	⑬ 城端小・城端中が全学級全学年単級化	※各地域においては、全学年が単級化するか、複式学級ができる5年前を目途に、地域毎に学校あり方を協議する検討委員会を設置する	校舎の老朽化が進み、全域的に見直される可能性

⑨ 南砺市の学校施設は全てが新しい ⇒ 新築は行わないことが前提(統合又は義務教育学校化は現在の学校施設を利用)